

夢再び

モンゴル恐竜調査隊

石垣 忍

「こんなに広い世界があることを知って世界観が変わった」(女子学生)

「一日中ずっと一緒にいるということが、大家族で生活しているみたいで新鮮だった」(男子学生)

「授業や書物によって知識としては知っていることも、ここで実物を見ると改めて納得する。ストーンとぶに落ちた」(男子学生)

ゴビ恐竜共同調査に参加した学生の感想である。

そう。ゴビ砂漠で学生は成長する。学術的に深まるだけではない。もっと根源的な、人間の考え方を変えてしまうような大きな力をゴビ砂漠は持っている。

トイレやシャワーの無い生活が、プライバシーも飾りもない集団生活が、力を合わせないといけない発掘作業が彼らを鍛える。

強風に吹かれることで、降り注ぐ雨にぬれることで、赤いベールのような夕暮れに丸ごと包み込まれることで、彼らは自然の中のちっぽけな人間をあらためて知る。

骨化石を9000万年の眠りから解き放つことが、実際に肉をかみち

⑨ ゴビ砂漠で変わる学生

ぎっていたであろう肉食恐竜の歯を見つけたことが、昨日の夜にその場を恐竜が歩いたかのように点々と残る恐竜足跡をたどることが、彼らの好奇心を呼び覚ます。

そしてモンゴル人の気質に触れ、たどたどしくモンゴル語をしゃべることによって彼らの目は確実に世界に向けて広がるのである。

それらすべてが彼らにとっては初めての経験で、日本の普通の学生生活では考えられないことだ。

40年前、若かった私は一人でインド亜大陸へ旅行し、日本とは全く違う岩石や地形を見て圧倒された。さらに異文化を体全体で丸ごと体験する

人生の宝物 心に育む

共同調査は、そうした場にもなる。

日蒙の研究者と学生が、「恐竜時代の様子を時間軸と共に正確に復元する」という大きな夢を共同で実現させ、また各人が人生の大切な宝物を心に育んでほしい。それが共同調査隊日本側代表としての私が心から願うことである。

(岡山理科大教授)

「僕が見つけた」と満足そうな男子学生。ハドロサウルス類の脛(けい)骨化石を白こ布で巻いて固定した標本の前で

